

平成30年7月4日

IAEA のプロジェクト「MODARIA」の会議を開催しました

平成30年6月6日から7日にかけて、福島大学環境放射能研究所（IER）において、国際原子力機関（IAEA）によるプロジェクト「MODARIA（Modelling and Data for Radiological Impact Assessments）」のワーキンググループ会議が開催されましたので、ご報告します。

IER は平成28年6月に IAEA と研究協力協定を締結して以来、IAEA の福島での研究活動の支援や IER で得られた成果情報の提供を行う等、活発な研究交流を図っています。今回の会議開催についても、この研究連携によるものです。

IAEA では、MODARIA（Modelling and Data for Radiological Impact Assessments）というプロジェクトを実施しています。

本プロジェクトは、環境への放射線影響を評価するにあたり重要なツールとなる各種の数値モデルや、それらのモデルで使用するパラメータの精緻化・高度化を目的としています。

このたび、MODARIA でテーマ別に組織された7つのワーキンググループのうち、ワーキンググループ4「放射線影響評価のための放射性物質の移行プロセスとデータ」の中から、東京電力福島第一原子力発電所事故後に日本で得られた移行プロセスやパラメータについて取り扱うサブグループ2の会議が、6月6日から7日にかけて、IER で開催され、本学の中井勝己学長や IER の研究者も参加し研究交流を図りました。

また、6月8日には、会議の参加者らが浪江町の大柿ダムと旧居住制限区域内および南相馬市のため池除染現場を視察しました。

なお、本資料は、本学の取り組みを地域社会の皆様へ知っていただくためにお知らせするものです。



会議の参加者ら（前列右から塚田祥文 IER 所長、中井学長）



大垣ダムの視察

参考：過去のプレスリリース

「福島大学環境放射能研究所(IER)と国際原子力機関(IAEA)は環境分野における研究協力に関する協定書を締結しました」

<https://www.fukushima-u.ac.jp/press/H28/pdf/92-03.pdf>

(お問い合わせ先)

環境放射能研究所事務室

電話：024-504-2848

メールアドレス：ier@adb.fukushima-u.ac.jp